

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度第2回箱根町子ども・子育て会議
- 2 会議日時 令和6年9月24日（火）午後2時00分～
- 3 開催場所 役場分庁舎4階 第5会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 吉田収委員、大熊春香委員、勝俣要委員、菅原美樹委員、小山千恵美委員、高橋大明委員、佐藤明香委員、室伏久美子委員、西岡利明委員、吉田朋正委員、安藤正博委員
 - (2) 執行機関 (事務局)
 - (3) その他 企画観光部企画課関田課長、教育委員会生涯学習課内田課長
(株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所 田原氏、長谷川氏
(箱根町こども計画策定業務 委託業者)
- 5 議題
 - (1) こども・若者支援に関するアンケート結果について
 - (2) こどもからの意見聴取について
 - (3) (仮称)箱根町こども計画骨子案等について
 - (4) 子ども・子育て会議委員の再任について
 - (5) その他
- 6 資料
 - 資料 1 箱根町子ども・若者支援に係るアンケート調査集計結果報告書
 - 資料 2 はこねっこ本音ミーティング@学童 報告書
 - 資料 3 (仮称)箱根町こども計画骨子案(体系図)

7 発言の内容

事務局	<p>(1. 開会)</p> <p>本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、箱根町子ども・子育て会議を始めさせていただきます。本日の司会進行を務めさせていただきます。子育て支援課山内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。皆様におかれましては日頃から町児童福祉行政の推進につきまして、格別のご理解、ご協力をいただき、この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。本日の会議から、次期計画となります(仮称)箱根町こども計画の内容の大枠の説明をさせていただきますことと思っております。現行の子ども・子育て支援事業計画に加え、少子化や若者支援の内容も盛り込んだ計画となって参ります。町のこどもたちや若者が自分らしく幸せに暮らせる社会を実現できるよう、町全体で後押しができる計画となるよう、委員の皆様には、引き続き、力添えを賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。それではお手元の次第に沿って進めさせていただきます。次第2 会長あいさつでございます。吉田会長よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>(2. 会長あいさつ)</p> <p>会長の小田原短大から参りました吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ようやく彼岸がすぎて、先ほどちらっとお話されていましたが、暑さ寒さも彼岸までということで、ようやく秋らしい気候になってきたというのが、この2日ぐらいになるかなと思っております。ただ、日本国内では、能登の方では大雨とかがありまして、小田原、箱根でも、1週間ぐらい前の台風の影響で大雨が降りましたけれども、何とか皆さんお気をつけになってお過ごしください。あいさつはこの辺にして、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>会長ありがとうございました。本日の会議から、少子化や若者支援の施策の関係課であります、町企画観光部企画課の関田課長、教育委員会生涯学習課の内田課長にも出席をいただいておりますので、ご承知おきください。また前回に引き続きまして、計画の策定支援をしていただいております株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所、田原課長と長谷川さんにも出席をいただいております。それでは議事に入ります前に資料の確認をお願いいたします。まず本日の次第、名簿、町の子ども・子育て会議条例、資料1 としまして箱根町子ども・若者支援に係るアンケート調査集計結果報告書、資料2 はこねっこ本音ミーティング 報告書、資料3 (仮称)箱根町こども計画骨子案(体系図)、最後に町の現行の計画の冊子でお配りをさせていただきます。お手元資料の方はそろっていらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。計画のお察し青いものにつきましては、会議終了後回収させていただきますので、卓上に残したままご退席ください。それでは議事に入らせていただきます。本会議条例第6条第2項で、委員の過半数の出席がなければ、会議に開催ができないと規定をされておりますけれども、本日は15名のうち、欠席が4名で、11名の委員さん、ご出席をいただいておりますので、会議は成立することを申し上げます。委員名簿の1番永井委員、2番山下委員、3番中条委員、5番佐々木委員</p>

につきましては、ご欠席の連絡をいただいております。また、室伏委員におかれましては、会議の終了時間によっては、途中退席をされるというふうに向っておりますので、ご承知おきください。お時間になりましたら、どうぞご退席してください。次に議長でございますが、条例第6条第1項の規定によりまして、会議会長が議長ということになっておりますので、今後の進行は会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いたします。

(3. 議題)

会長

着座にて失礼いたします。それではこれより、会長の私が進行いたします。会議の円滑な運営に、委員の皆さんの普段のご協力をお願いそれでは次第3(1)こども・若者支援に関するアンケート結果について、こちらはサーベイリサーチから説明をお願いいたします。

委託業者

(1) こども・若者支援に関するアンケート結果【資料1】

会長

ありがとうございます。ただいまこども・若者支援に関するアンケート結果について説明がございましたが、箱根中学校のPTA会長の菅原委員さんにもご出席いただいておりますので、お話をお伺いしたいと思います。今回中学生はアンケートの対象ではありませんが、こどもたちの様子やこんな支援があれば、というご意見いただけますでしょうか。こどもたちの声を聞いて、要望というか様子などいただけたら。

委員

このアンケートの結果に関係あるかわからないですが、最近豪雨が多く、大雨が多いのに避難所がすごい川のそばというところは学校でも。昔の災害はほとんど地震とかばかりだったので。特に宮城野とか仙石は、避難所は川のそばで、避難訓練とかも地震に対する訓練ばかりじゃなくて、大雨とかゲリラ豪雨とか、水害に関する訓練とかを今後通学の間に何か、特に中学校は、結構エリアが広いので、湯本の方からバスを使って来ていて、その辺は心配しているというところです。

会長

昨今、本当水害によるものが、能登もそうですが、箱根は他人事ではいられない谷あいですから。

委員

そうですね。孤立する可能性も高いし、道路が崩れるかもしれないので。一度、防災家庭教育講座で、箱根町の防災課の人が来てくれて話を聞いたのですが、そういうときの備蓄食料が少ないということがわかって、特に観光地なので、宿泊されている方とかの数を含めて足りるのかということのも不安になりました。

会長

ありがとうございます。中学生だけじゃなくて、これは住民の皆さんの共通のものかなと。箱根町も対処すべきだと思います。もう一方、私からお願いしてよろしいでしょうか。幼児学園保護者会の大熊委員は、ご自身も調査の対象になる方と思いますが、以前小児科が町内で欲しいという意見もいただいておりますが、お子さんのことでも、

	<p>この調査の対象となる世帯の方としてのご発言でも構いません。アンケートの中にも、出産育児に関しての、不安や苦勞、理想的なこどもの人数を持つ際の課題などのアンケートの項目もありますが、大熊さんのご意見をお願いしたいです。</p>
委員	<p>これ回答しましたが、「好き、または好きではない理由」の回答で交通の便が上位にあがっていたと思います。交通の便が悪いからとか。ここはもっと良くなればと思います。</p>
会長	<p>自分もかつて箱根に住んでいたことがあったりするので。地域によるとは思いますが、土日の外出がままならない。仙石の方だと御殿場の方に逃げられる方法あるかなと思います。大平台とか下のあたりだと出ると、帰るのが大変。</p>
委員	<p>そうですね。今日もバスで来たのですが、湯本の前がすごく混んでいて。</p>
会長	<p>車があればまた別ですが、やっぱり公共の交通機関を使うとなれば、やはりそういうところは重要な問題かなと思います。その辺も本当に子育ての観点から少し改善するようなものがあればと思います。私から言えないですけど。</p>
委員	<p>せっかくアンケートとったので、ぜひ何か改善してもらいたいと思います。</p>
会長	<p>ぜひその辺のところは、よろしく願いいたします。他にご意見がありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>少し確認だけさせてもらいたいのですが、16～39歳対象で、大変貴重な資料になるアンケートだと思います。前回の会議の時も触れたのですが、回収率が少し残念だと思ってしまうのですが、1,000件の対象に対して159件。このアンケートは、今年初めてやったアンケートで前回との比較もできないですが、今回15.9%ではデータの的にも、残念だなという思いがあるので、次回やるときはもう少し何かいい方法を考えていただければと思います。</p>
委員	<p>一個いいですか。この前のこれのアンケートではなく、前のアンケートのときに、回答が残ると聞いたのですが、私ではなくて、夫が該当者になって、二、三回やり直して全部消えたと言っていた。キャッシュ削除しなければ、残るとおっしゃっていたと思うのですが、消えたっぽくて。夫は、意地でも入れてやると言っていて、やっていたのですが、全部消えちゃったらしいです</p>
委託業者	<p>設定上はキャッシュを消さなければ残る設定にはしていますが、個別の事情に関してはそのパソコンとかスマートフォンの設定までは我々もわかりかねるところがありますので、そういった事象に関してはシステムの方と、共有させていただきたいと思っています。</p>

委員	よろしくをお願いします
会長	回収率のアップも要請したいと思います。
委員	これは送ったら送りっ放しですか。例えばそのあとに、いつまでですので、再度お願いしますみたいこととかは特にはやっていないのか。
委託業者	今回再度お願いしますもやりました。期間も少し延ばさせてもらって。実際始め10%ぐらい来てなくて、まずいとなり、期間を延ばしたのですがという状況です。
委員	了解しました。
事務局	このやり方をしているのは他のところにもあるのですが、他のところでも若者でウェブ回収というのは、あまり回収率が良くない。特にこの箱根で15.9%というのは低すぎるということではなくて、全体的にこの年代のアンケート結果は、そのぐらいだというふうに聞いています。
委員	何か回答したら何かプレゼントではないが、そうしたらもっと上がるかもしれない。
委員	仕事でも、若者へのアンケート調査とか、色々と見たり分析したりしますが、クオカードを例えば1,000円つけても、このぐらいです。大体この数字見るなど。15~6%が標準。箱根町が特段低いわけではなさそう。
委員	1,000件の配布する先はどうやって選ぶのですか。
事務局	乱数などをかけて無作為で抽出しています。
委員	例えばホテルの従業員さんとか。
事務局	箱根町に住民票がある方は入っています。
会長	何かアップできる方法を構築すべきだと思いますが、よろしくお願ひいたします。続いて議題の(2) こどもからの意見聴取について事務局から説明してください。
事務局	(2) こどもからの意見聴取【資料2】
会長	ありがとうございました。当初7月30日に予定していたはこねっこ本音ミーティングの周知については、私も聞いておりましたが、すべての児童生徒へのチラシを配布したようですが、申し込みが少なくて、本当に残念だと思います。当初予定した会議

は実施できませんでしたが、報告にあった通り、放課後児童クラブでの実施となりました。今後これからまたその達成の過程、作成されると思いますが、その作成の過程で子どもたちからの意見も検討していかれると思います。こどもの目線に立った施策を進めていくには引き続き、小中学校や高校生の現状や、どんな思いがあるかなど、意見を聞かせてもらうことは大切だと思います。先ほどもありましたけど、本日まで出席の西岡委員はファシリテーターとして、はこねっこ本音ミーティングに企画から参加していただきましたので、当日の補足や意見聴取の重要性、今後の取り組み継続への意見などを話していただけたらと思います。

委員

どうもありがとうございます。子育て支援課の皆さんと何回もミーティングを重ねながら、このワークショップに関しては、もちろん子ども計画のために意見を聞かせてもらうということも1つですが、参加した子どもたちが意見を言ってよかったとか、大人は聞いてくれる、と感じられるということの両方が大事だと思っていて、そこを意識して実施をしました。まとめていただいたところも含めて、私とその役割をもって感じたことを3つ述べさせていただきます。1つはやはりアンケートにもある、移動の不自由といいますか、移動生活圏にあるものとないものが、際立つということです。遊具がない、子どもだけで行けるお店がないとか、そういった体験格差みたいなものがこの地域では大きくあるのではないかということが気づきの1つです。歩ける範囲の商店とか、それが例えばコンビニだとしても、何か観光客の方々向けだけではなく、プラス子どもたちに開いた何かということがあるようになっていくといいのかなど。現実的に動物園を招致することが難しいという中では、今あるものがどう変わるかということが大事なのではないかということが思ったことの1つです。2つ目に、緑や自然がいいという子どもたちはやはり多いです。アンケートにもあります。自然環境の保護ということは、大人世代がすごく責任を持たなければいけないところだと考えていて、これから物価の国際格差というか、日本の物価が低い、安い国になるので、どんどんインバウンドが増えて観光客が盛り上がっていくと思います。箱根町の国立公園に指定されているところでも、色々な開発のターゲットになってしまうと思います。森林が伐採されたりとか、今仙石原小学校のところが森や木がなくなって、結構寂しいなんてことを子どもたちと話したりします。やはり箱根町もDMOの活動なんかもあると思うのですが、経済活動との両立ということをしっかり考えて、自然環境というのも、共有財産と思って、それを我々の世代でいたずらに減らさないための行政からのコントロールということもすごく大事なのではないかということも思いました。最後に3つ目ですが、こどもの権利を尊重するとか、意見を言うってもらうということは難しいことです。アンケートに回答しないとか、募集型のワークショップに参加の手が上がらないということも一つの表れだと思いますが、本音を言ってね、意見を言ってね、と言っても何のことやらと。意見が出るかどうかという難しいことあると思います。だから、ファシリテーションした1時間ぐらいのところの最後に小学校2年生ぐらいのずっと隣いた女の子なのですが、最後にボソッと「今日つまらなかった」と。もしかしたら唯一その1時間の中で、表れた本音だなと思ったわけです。今日つまらない、遊べなかった、と言える環境にあるかということが重要だと思います。

す。例えば学校の授業があつて、授業つまんないなと思い、先生に「つまらなかった」と言えるかどうかという。それは言うてはいけないとか、先生を批判してはいけないということをごどもがもし思っているとしたらそちらの方が問題なのだと。多少専門的な話で、こどもの権利の尊重といったときに、意見を上げましょう。こどもアドボカシーと言いますが、三つの支援を必要です。一つは意見形成、次、意見表明で最後に意見実現です。意見表明のところを今回我々がやったのだと思います。声を出してと、でもその前に何を感じているのかとか、何を言っているのか悪いのか、そういう自分の中の意見を作るというのは結構高度なこと。それが日々なされているかということが、措置としてはすごく大事。それが言えるかどうかということは意見表明されて、実現されるかどうかはもちろん実現されたらとても素晴らしいですが、実際水族館が来るかどうかはわかりませんということも含めて、それはコミュニケーションが必要です。だから3つの段階で分けたときに、意見形成のトレーニングということがやはりとても大事だと思いました。それがなくなかなか本音ではない、見せかけの参画がただ繰り返されるだけ。そう思うと、大人が意見を言いやすい環境をつくれるかどうかということは、大人が考えるべきことだと。日常の保護者とか地域の大人とか或いは学校の先生や、幼児学園の先生方が、何が環境として大事かということ学ぶような機会や、保護者と横断的に一緒に考える機会とか、何かそういったものが日常的現実的にはとても大事だと思います。今後も意見参画、意見を聞くということは、こども計画の中に入り続けていくと思うので、それと併せて意見を言える環境を作るということ、計画の中に入れていいと思いました。

会長

ありがとうございます。政府もこどもまんなか社会という施策を打ち出していますので、こども中心に変わっていけばいいと思います。ありがとうございました。引き続きお力添えをお願いいたします。もう一方は仙石原小学校の校長の高橋委員にお聞きしたいのですが、学校ではこどもたちの意見を聞くことの取り組みなどをおられますか。

委員

耳の痛いところでもありますが、本当に今に始まったことではなくて、極端な話、自分がこどもの頃から先生には意見を言いなさい、授業中、手をあげなさい、発言しなさいというのは大事なことだと。それがもう何十年も続いている中で、時によって成果があつたり、時によってやはり元に戻つたりというところがあります。その中で、我々も特にどこの学校でもやっている校内研究会というのがありますが、そういったもので毎年それぞれテーマを決めながら、思ったことが言えるような授業づくり、こどもが意欲を持てるような授業づくりとか、そういう取り組み、努力はしているところです。なかなか成果に出ないところがありますが、その努力はし、時によって成果が出るのもあるし、なかなか見えないところもあるというのが現状かなと思います。

会長

自分もこどもの頃に意見言う立場になったら、なかなかそういう発言をする力は人によると思いますが、そういう子たちの意見も酌み取れるような環境設定をしていただけたらと思います。他に意見があればお願いいたします。よろしいですか。では引

き続き、(3) (仮称) 箱根町こども計画骨子案等について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

(3) (仮称) 箱根町こども計画骨子案等について【資料3】

会長

ありがとうございます。本日はオブザーバーとして、企画課長と生涯学習課長も出席いただいておりますので、少子化対策とか、その支援の取り組みについてお伺いできればと思います。まず企画課長からお願いいたします。

企画課長

企画課の方から若者に対する支援策、町が現状行っているものに関して、かいつまんで説明をさせていただきます。町では総合計画、総合戦略に基づき、人口減少、少子化対策に取り組んでいるところでして、そのうちの大きなもの目標の一つとして、箱根町への新しい人の流れを作るといったものを掲げております。これはわかりやすく言うと、若者を中心に転入者、移住者を増やす取り組みとしてやっていきたいと思います。この中で現状では大きく3点の取り組みを実施しております。1つ目は、長く住み続けてもらいたいということで定住を支援するための経済的な支援策としまして、40歳未満の若者世帯、子育て世帯が家を買った時にその取得費の補助ということで、最大100万円の補助をしております。それから新婚世帯、転入してきた若者世帯が民間の住宅を借りたときの家賃の補助ということで最大2年間、月2万円の補助をしております。そのほかにも住宅取得の際に組んだローンの利子の一部補助、信用保証料の一部補助といった経済的支援を行っております。2点目は箱根町に移住してみたい層が、首都圏を中心に定数いますので、そういった方々を対象に一定期間、2～3日ということではなくて最大2週間、実際に箱根町で生活をしていただくトライアルステイ(お試し居住)といったものを実施しています。併せて、企業版の試し居住、サテライトオフィス体験。都会でなくても仕事ができるということを、実際に物件を借りて、貸してあげて、体験していただき、その次に社員が移住してくるというような取り組みをしています。これはコロナ禍の影響で地方移住のニーズも高まった背景もありますし、実際に具体的な数字を言うと、トライアルステイなどは、年間で10組募集するのですが、応募が84組とか、10倍近い倍率で大変世間からの関心も高い取り組みとなっています。3点目ですが、住まなくなった家売りたい、貸したい、そういったものを町が運営している空き家バンクという制度をやっております。空き家バンクに登録した物件に関して、実際にそれを買ってリフォームして住もうという層もいますので、最大50万円の空き家のリフォーム代の補助といった経済的な支援を現状では行っています。若者支援ということで、先ほど40歳未満と申し上げましたが、20代30代を中心に若い世代に箱根に住み続けてもらいたいですし、箱根に移り住んできてもらいたいといった、両方の側面から可能な限りの経済的支援を行っているという現状でございます。企画課からは以上です。

会長

ありがとうございます。引き続き生涯学習課長お願いします。

生涯学習課長

生涯学習課長の内田と申します。先ほども、居場所づくりというテーマ、子育ての方でもおっしゃっていましたが、我々も居場所づくりということで、放課後子ども教室を令和5年6月から箱根幼稚園の方で、地域の参加者の方、登録されている方が全部で50名いらっしゃるのですが、その方々の中からいろいろな毎月行うテーマを決めまして、地元のいわゆるご家庭に帰るまで、この放課後児童クラブと重なるのですがその隙間を我々の方で。例えば湯本ですと、算数ドリルに特化したものでやっています。こどもの居場所づくりですので、特にいいなと思っているのは、箱根幼稚園は地元の方がクリスマスリースを作って、ケーキを作ってみようよといった形でやってくれたり、たまたま役場職員で、地質に詳しい職員がいるので、その中で箱根の成り立ちというようなものをやってもらったりと、かなり好評で徐々に少ない中でも参加登録のお子さんが増えているので、非常にいい取り組みだなと。ただ仙石、森小学区は担い手となる指導者がいないのでできない。湯本と箱根幼稚園でやらせてもらっています。あと、生涯学習といいますと、カバー範囲が広くて、文化財もあれば、公民館もあれば、いわゆる生涯学習ですから青少年指導員の方や子ども会の方々の連携もありまして、やはり最大の問題は子ども会の担い手がいない。仙石原ももうなくなってしまうのではないかと。自治会の方々と、出張所の所長にお願いして、自治会で見てもらえないかとみたいな話も色々検討していますが、とにかく人口が伸びない中で、なかなか担い手を見つけるということが難しいですが、その中でもうまくやりくりすれば、やってくれる方もいるということで、その辺は粘り強くやっていきたいと思っております。以上です。

会長

ありがとうございます。引き続き支援をお願いしたいと思います。教育課長と生涯学習課長から町の取り組みがありましたが、他の委員の皆さんから何か意見がございましたら、お願いいたします。

委員

基本目標のどこに入るかということと、5だと思うのですが、1つは、箱根町の未成年人口の中で、まあまあ割合を占めるのが支援とか児童養護施設。3施設（2施設）ありますし、全国的にも人口比に対して3施設（2施設）は非常に多い。実態として箱根町の施設を出た子供たちはその後箱根町でどのぐらい働いているか。私もわかってはいませんが、少なくとも18歳からそこで暮らすわけですね。基本、町というか小田原児相案件かな、難しいかなと言いながら思っていますが、とはいえホームグラウンドである箱根町として、そこを巣立っていくことを支える、望むのであれば、この地域の中で暮らし続けられるように就労の支援をしていくとか、たくさん旅館業者の方がいらっしゃって、そういうところへの雇用促進とかそういう形で何かサポートできないかということは、箱根町特有の子ども計画の要素の1つかなと思ったところなんです。同じく基本目標5なのですが、仙石原で暮らしていると顕著なのがネパール出身の方々の移住者といいますか、コミュニティ、人口はかなり多くなっています。子どもたちの割合とかも。如何せん、英語と違って人口が多い言語ではないので、翻訳通訳が非常に難しいと、多分先生たちもいらっしゃると思っておりますが、もうちょっとテクノロジーが進めば、アプリケーション、ネパール語の通訳までカバーしてくれ

	<p>るかなとか、或いは何か共通の通訳さんとかいてくれるといい。町のお抱え共通通訳者がいらっしやるとコミュニケーションできるようになるとか。いずれにしろ、どうしても望まず孤立させてしまっているのではないかということが、同じ保護者としての課題かと。どうしたものかと思うので、何かしらカバーできないかということも箱根町特有のことの1つかなと思います。最後にすいません。基本目標4あたりかなと思うのですが、先般まではこどもの意見聴衆ということに関して、やっぱり日常から意見を出せる、こどもの権利が保障されるということをごどもたちが感じられるということと、大人もそれを尊重できるということが日常の環境づくりとして非常に大事だと思って、この基本目標4の中の他の施策にそれが含まれるといいと思いました。</p>
会長	<p>養護学校のことは、私も学生が実習に行ったりするので、認識はしているのですが、就職までやはり。通学はするのですが、そこまでだと出るということが多いというのは、担当の先生たちが来ますので、その辺のことちょっとね、施設長で1人知り合いがいるので、少し話が出来たらいいかなと思っています。他にご意見ありました。</p>
委員	<p>初歩的な質問なのですが、計画という名がついているので、計画して実施して、結果がどうだったみたいなのがあってなのですよ。令和2～6年度に子育て支援事業計画があって、7年から、箱根町こども計画が始まりますが、子育て支援事業計画はどうだったのかなと。</p>
事務局	<p>子ども・子育て支援事業計画は引き続きこども計画の中に入っていきます。</p>
委員	<p>ずっと計画しているのですか。いつ実施するのですか。</p>
事務局	<p>計画の中で、こんな目標の中でこんな施策をやっていきます。その中の施策は細かく言うところいう事業ですということが載っているのですが、それは毎年、年初めとかに会議とかで報告させていただいていますが、事業実施状況というのを配りさせていただいて皆さんにこの事業はこういうふうに進めていきましたみたいなものの報告はさせていただいております。</p>
委員	<p>さっきも色々こういうことをやっていますと報告していただいたのは、計画の中で、やっていますということですか。計画と書いてあると、今後やる予定お話と違って、いつやるのだろう、何をやったのだろうみたいな。</p>
事務局	<p>実際まだこれから取り組む内容もあるとは思いますが、実際すでにやっている事業もあるとは思いますが。こども計画の中でこういうふうにしていきたいと思いますという形で、計画を立て、進捗状況はこの子ども・子育て会議の中で報告をしていくという形になります。</p>
委員	<p>実行も並行してやっていますと。わかりました。ありがとうございます。</p>

会長	ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。
委員	先ほど、放課後子ども教室の話で、仙石原と箱根の森は指導者がいないのでできないというお話あったようと思いますが、例えば仙石原だと「ざっこの会」という、地域の方が指導者になって、隔週土曜日の午後に3時間ぐらいこどもを集めてあります。例えばある日は、竹を切って、昔の空気鉄砲作りをして遊ぶ、星座を勉強する会と、色々な企画をやられているのですが、そういった方々にお願いするということとはできないのか。
生涯学習課長	私も参加して一緒に作ったこともあるのですが、その方も忙しく、高齢の方なので、さらにそれをまたお願いするというのは厳しい。役場のOBで住んでいる方をお願いしようとか、いろいろありますが、結局やったとしても役場の職員が、担当と2人でお手伝いに行くような形で、生涯学習課が人を派遣しないとできないというのは、箱根幼稚園もそうなのですが、なかなかやったとしても、生涯学習課が出ていかないといけない。
委員	思いつきなのですが、大概「ざっこの会」をやられている方は、学童の指導もやられている方が多いような感じがしています。当然人口が減っている中で担い手は、なかなか少なくなっていると思うのですが、国は放課後子ども教室と学童の連携型とか一体型を目指していますが、そこでうまく一緒にやっていくとかすると少しは指導者不足が、何とかできないかなという気もしたのですが。
生涯学習課長	放課後子ども教室は無料で、こっちは有料ですので、その辺もあって、なかなか過渡期というか。どうせ同じようなことやっているのだから、一緒にやればいいのにといいのはあるのですが、まだそれは将来的な話で、いずれそうなっていくのかもわからないところですが、今のところは出来るところからやっているところです。
会長	ありがとうございます。他にご意見ございますか。
委員	委員がいくつかお話した中で、自分も幼児学園にいて、50年ぐらい箱根に住んでいるので、施設のお子さんがという中では、箱根町で働いている方も、ホテルとかにも勤めして、お子さんが来てということもあります。もともと事案が相模原とか厚木の方から来ているもので、あちらに親御さんが住んでいるということも多いので、箱根で働くというよりは、外に出て、親御さんの近くに行くということもある。神奈川県内には住んでいて、自分の同級生とかもいますし、会ったりもしますが、そういうふうには違ったところから箱根を支えてくれたりする場面もあるのかなと思っています。あとネパールの方は1回目の会議の時にもそういう話が出て、手紙とか、普段の日常会話とか、幼児学園もネパールの方で少し困っているところもあったりしているという中では、今は割と県の方から色々来ていただいて、この間は職員の研修でネ

パールの方、外国の方が増えた場合、こうしたらという職員だけの研修をしてもらった。例えば面談だったら、ネパール語がわかる人が電話通訳で一緒に入って来て、面談をするとか、そういうことも考えていただいたりもするので少しは進んでいるのかなと。あとは星槎のレストランのところで、日本語を教えるとかそういうのも増えてきたり、少しずつは進んでいるのかなと思います、やはり働きながら、こどもを育てながらなので、日本語を学ぶとか、時間も3時半からという中では、こどもが帰ってきてからだと、自分だけ日本語学びに行くのは少し厳しいという意見もお母さんたちから聞いたりする。お母さんたちもできるだけ日本に馴染んで日本語がよくわかったほうがいいというのは感じてくださっていて、すごく努力もされているのかなと思っている。保護者会の方も、ネパールの方を保護者会に入れたり、小学校もネパールの方を会長さんにしているので、ネパール語で訳して、ネパールの方が中心で連絡をまわしてくれたりとかしている部分もあって、少し進んでいるのかなと思います。もっと進めるといいのかなと思います。以上です。

委員

ネパールのことですと、保護者同士で繋がれていないというか、当事者感覚として、何と言いますか罪悪感がありまして。登校班にネパールの子がいるが遅れてくる。班長さんなので、やはり来て欲しいと思うわけです。ニュアンスをトゲトゲしい感じでなく、でもなんか、もうちょいちょっと頑張れよというのがすごく難しいと思う。だからこう言ったり言わなかったり、うーんと思いつつながら、登校班のLINE上と、あとたまに登校班で顔を合わせるくらいの親同士の繋がりが少ないのでだからどうしようみたいなことがあり、やはり大人同士ももちろん学校や、幼児学園の先生方との繋がりを今すごく改善してくださっていると、保護者同士も改善しないといけないと自分としてもその助けがほしいと思いました。

会長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

委員

居場所づくりというところで、私が最近気になっていたことがあったので、少し外れていたら申し訳ないですが、娘が幼稚園に入ったものの、まだ子育て支援課のイチゴ教室ですとか、出産されたばかりのお母さん方とまだ何回かお会いしたりとかお話ししたりする機会がある中で、どうしても通過してしまって日中は繋がる場所がなく、お嫁で来て、1年間、家の中に2人で過ごしていました、と親子教育で話をしたら、もうすごいいっぱいいろんなことお話されて、すごく孤独だったんです、お友達を作りたいかっただけなんです。子育て支援センターとか近くにあるのに行きたかと思いましたが、まだ1人で行くにはハードルが高いみたいで、自分もそうだったから。でも行けば絶対お友達いるから行って見て、と声をかけて、自分も一緒に行ける日は予定を合わせて一緒に行く形で、小さなレベルでの支援というか、お母さんたちも場所が設定されていても、そこに行くというまでの勇気がなかなか出なくて家の中で引きこもって、そのお母さんはもう実家の千葉に帰りたいと。箱根に定住の目的でお嫁さんに来たが、やはりお友達ができないから周りにこどもがいないから、もう自分は帰りたいと思っているという話をこのあいだ聞いてすごく衝撃でした。そういう経験だったから引つ

越してしまったとしてもしょうがないが、やっぱり何の努力もなく、それで帰り、箱根はつまらなかったというのは絶対嫌だと思って、支援センターに行こうとか、夏だったのでお祭りが各地区であったので誘って、小さなことですが、やりながら私の中でもお友達というママ友、保育園に入れば、お母さん方も繋がっていくが、なかなか未就園の生まれたてだと、外にも公園にも行けないし、近くには公園もないというのがあります。触れ合うお母さんたちのきっかけが、町の方でも設定はされているがやはりそこに飛び込む勇気もないし、支援センターもいっぱいあり、本当に楽しいというの、聞かないから、その住所とその園の名前だけで終わっている。知っている人がどんどん声をかけて繋がっていくというのが私の今できる役目かなと思ってやっています。小さな子どもを抱えたお母さんの繋がり、居場所というの、もう少し考えていければ1人でやっていける努力というの、結構限界があると。幼稚園に娘が行ってしまうと、その時間は一緒に支援センターには行けないので行ってもらうという声掛けだけに結局はなくなってしまって、休みの日があったらこの日が幼稚園休みだが一緒に行こうみたいに今はさせてもらっているが、地区の中でも引っ越してきた方とか、それこそトライアルステイを経て、箱根がいいと思って住まわれたけれども、なかなか出産をした後の繋がりが途絶えてしまったということでもた外に戻ってしまったら、もったいないというのをひしひしと感じたりしたものですから、今、居場所というきっかけをいただいたので、ご報告がてらお話しをさせていただきました。

会長

若いお父さんお母さんにそういう場を提供できるのはもちろんですが、気楽に来てもらえる環境設定というのを箱根町には努力してもらいたいと思います。よろしくお願いします。他にご意見ございますか。

委員

この会議で次期計画の更新というか、体系図が示されて、この体系図に基づいて、今回は素案が示されるということだと思います。来年度から始まる新しい計画は、この資料3の1ページ目の下にも書いてあるとおり、現行の子ども・子育て支援事業計画に新たな要素として少子化若者支援貧困に関する項目を盛り込むということで、(仮称)箱根町子ども計画になるということ踏まえて、新たな体系図が示されました。後ろのA3の体系図イメージ1の赤いところを見れば大体わかりますが、もし皆さんにわかりやすいように今までなかった少子化若者支援貧困に対する新たに追加された項目になると思うので、基本目標ごとに、どこに重点を置いて、少子化なら少子化貧困がどこに入っているのかというのがわかれば教えていただきたい。赤色を見れば大体わかりますが。

委託業者

大きいスライドの2個目の新と書いてあるものがあります。先ほどおっしゃった通り、赤いところは新しいところにはなりません。1点目の「基本目標1 結婚・家庭生活への支援」ということで少子化対策です。箱根町は子ども・子育て支援事業計画だけでなく、次世代育成計画、貧困対策計画と一緒に作っていたので、貧困は大きく増えたということではなく、もともと貧困対策計画があったので、基本目標5が箱根町貧困対策計画でした。そこに最近話題となっている国の方の大綱から出てきたヤングケ

アラー、ひきこもり、こどもだけでなく、若者への支援も展開したということが基本目標5になりますので、大きく変わった点としては、基本目標1が若者、少子化対策、基本目標5が貧困対策となります。基本目標2の名前が変わっていることに関しては、国から出てきた子ども・子育て支援事業計画の内容がアップデートされているというような内容となります。こう見ると、若者支援があまりないのではとお考えになるかなと思いますが、高校卒業した後の若者支援で行政ができる支援は、貧困、ひきこもりといった問題があった時への支援しかできない状況なので、若者支援という貧困的な側面と、結婚支援が大きくなっているという流れとなります。

会長

他にご意見ございますか。

委員

先ほど、こども会とか担い手がいなくなっていて、頑張っています、ただ少子化で人口も減ってという話をされていたと思うのですが、本当にそれだけが理由なのかなと思って。どっちかという、保護者がみんな共働きになってきて、できないというところが結構大きいのではないかなと思うので、一生懸命人を探しても、今後出てくる人というのはどんどん少なくなっていくのではないかなと思います。人を頑張って誘致し、こどもと保護者も確保できたから、体制が作れるというのはできなくなっていくのではと思いました。箱根町だけの問題ではなく、東京だったらすごくいい体制が立てられるかという、東京の方が共働きも多いと思うので、難しいのではないかなと思いました。

委員

正直、こども会を1年入ってみて抜けました。なぜかという、幾つかありますが、どういう体制で誰の意見で運営されているのかもわからないので、その中でどうしたらいいかわからない。やりがいもないし。1回コロナが落ち着いていたので、交流会をしようとして計画に入っていたので、交流会やるかやらないかをこども会のLINEでアンケートしたら、やりたい人がほぼ0でした。望んでいないのだ、そうなのだ。では何のためにあるかという、別に誰も望んでない会でどうこうしてもしょうがないと。こういう場なので言えますが、自治会とかこども会の運営している方には声は届いてないという、言う気勇気もないです。伝わらないです。

委員

こども会は親が参加する会ではなくて、例えばバス旅行やディズニーランド行きましようとなったときに、会費が高いやそれなら家で行った方がいいという親もいたのですが、そうではなく、家族以外のこどもたちとみんなで何かをするという体験ができるのがこども会だと私は思っています。自分たちが家族で好きな体験をするのは、いつでもやろうと思えばできますが、色々な年齢の子と関わって、上の子が下の子を見たり、兄弟のいない子が上とか下と関われない子と関わったり、それでしか得られない経験がたくさんあると思っています。御神輿をやったりだとか。確かにうるさい人もたくさんいて、こうしないと駄目みたいなこと言われたり、少し嫌な思いをしたりとかもありますが、結局親が役員をやるのが面倒くさい。これはどういう状況でやっているのだとか、私はやりませんとどんどん無くなり、結局こどもたちがコミュニ

ティで嫌な人ともどうやったら回避して仲良くできるかなども学べずに、嫌だから行かなくていいと。それで育った子がどんどん増えて、中学校も登校してこない子がすごい増えています。やはりコミュニティが本当に希薄というか、嫌な思いしたくない、面倒くさいことはしたくないとなる。PTAでお知らせを出しても、やはり来ません。来れば楽しいですが、やはり面倒くさい、仕事が忙しい。こどもにとったら、どういうものがあるのだろうという考えが少なくなってきた、自分中心の考えが増えているとか、面倒くさいことは嫌だとか、そんな気がして少し心配なところがあります。今後はもっとそういうコミュニケーションのできない子が増えていくのではないかなと。

委員

おっしゃっていることは基本的に賛成していて、こどもの体験の機会を増やしたいと、それが面倒くさい、何ならお金で時間を買った方がいい。別にこの町ではなくても、プログラムで体験を買えると思う人もいるだろうと思いますし、一定程度はそうだと思います。私が抜けた理由を言ったのは、所存ですが、やるならちゃんとやりたい。やるなら参画したい。自分たちの考えとか、こういうふうにしていきたい、とちゃんと声を上げて、主体的に運営したいです。でもそれがここでは難しそうだと思うから抜けるわけです。

委員

役員になりたいと言ったのか。

委員

言えないです。役員さんが、どのぐらいしていて、どういう人達で、そういうこと全然わかりません。

委員

だから飛び込んでみて。ただ立って見ているだけではどういう人かはわからない。

委員

飛び込める人もいます。私の立場からすると情報の透明度が低すぎるので、ここには関わりづらいと思いました。

委員

抜ける方が本当に多くて。

会長

これに関しては箱根町の問題だけではなく、日本の社会的構造の変革というのをすごく感じます。若い小中学生でも不登校になる生徒が増えているというのは、コロナ禍での大きな影響だと思います。自分もそうですが、こども会ではなく、自治会になってくるとそこに入っていくのは、透明性ということ言えば、全然見えてこない部分です。それで少し疑心暗鬼になるのかなと思います。意識はしていかなければいけないことかなと。自分が参画する姿勢を見せて、意思を示さないと続いていかないことだと思います。こういうのは町に任せるものではないと思います。やはり親なり、こどもをどういうふうにかかしていくかという親の姿勢だと思います。社会の中に入っていかなければ、そういうシステムの中にこどもも体験させて。

委員	<p>親の姿勢おっしゃるとおりです。その上の世代のことも言っていると思います。PTAもそうですが、非常に構造的で、長くこの地域に住んでいて、年齢が上の方が運営しているということが前提になっている組織にわざわざ時間を使うのは。</p>
委員	<p>そんなことないです。</p>
委員	<p>そういう風に見える。これは私の先入観で100%だとするという説もあると思いますが、少なくとも関わってみたり、参加してみたりして、そのように見えることに残念だと思い、別の形でやるしかない諦めている。それは子どもたちもそうだと思います。例えば、やりたいことがあるなら生徒会長になって校則を変えなさい、と先生が言います。でもそうできるような環境を学校として作っているのかということもあると思います。立候補して校則を変えないから今のままです。そうかもしれないですが、やはり環境がどうかということを考えてときにどうしたらいいかというのは親だけに問われるのは困る。子ども会というよりも、自治会の運営が形式的でそういうのを見ていると、その中に取り込まれたくない。</p>
委員	<p>入って変えればいいのでは。</p>
委員	<p>という話ですが、その力をなんでここでは使わないのですかという。</p>
委員	<p>おそらくですが、転入されてくると、古いコミュニティの中でなかなか新しく来た人間が言っても難しいというところもあるのではという気がします。そう考えると本当に理想主義になりますが、移住者支援をお金の面の支援だけではなく、古いコミュニティに対して、新しく来た人がどう馴染んでいけるかというところ。どうすればいいのかというのは、今ぱっとは思いつきませんが、それはすごく大きいのかなと思いました。</p>
委員	<p>自分で言うのもあれですが、時間を使っている方ですし、意欲もある方ですし、自分で色々やる方ですが、そうでなければ、家に1人であるかもしれない。そういう方が移住したらそうなるという経験を積んでいくと、出ていこうかなとなるのだろうと思います。もちろん自治会やPTAだけの問題ではなく、世代だけの問題でもないですが、そういうことが起きるとのこと。私たちは変わらないが、あなたは参加してというスタンスだと、それは続くだろうと。私は悲観的なので、私は入っていますが、自治会の体制が変わったら入りますというのは少し難しいと思うので、期待していません。ということですので悲しい気持ちになっています。</p>
委員	<p>今、仙石でこういうスペースを私たちがやろうと思っているのですが、やはり先立つものが、場所を借りるお金がない。私から言わせると、箱根じゃない人たちが遠くからいくらやっても、良くはならないので私はお金の無駄遣いだと思っています。そういうお金をそれ池谷さんとかやる気のある方が仙石にたくさんいて、ホテルで働い</p>

ている人たちがいい年になるといなくなってしまうという問題もわかっていて、そういう人たちの交流スペース作るとか、移住者の人が何か自分の得意なものをそこで披露する場所とか、そういうことをやりたいと思い、色々活動していますが、場所とお金がなくて、みんなの持ち出しで、たき火を何回かしています。そういうふうになんか色々な人を取り込んでやろうと、活動していますが場所がなく、行き詰まってしまっているという問題もあって、そういうのを少しでも補助してもらえれば、というのが今一番言いたかった。やりたいですがお金がない。本当に仙石は色々な活動をしようとしている方が多くて、それが一緒にならないのがまたあれですが、それぞれ皆さん思いがあるので。

委員

居場所とか孤立とかは本当にコロナあたりから、町もここは課題だということで、シェアタウンという活動をしています。うまくいってるかどうかは少し置いて、交流イベントや、担い手の募集をしたりと積極的に活動している方はそのうちの少数かもしれませんが、全体的には30人ぐらいの方が担い手になるとおっしゃっています。交流イベントに参加してくれる人の中には、こども会でこども同士の交流がほしいがなくなっているからシェアタウンの方に来ましたと言っている保護者の方もいて、保護者もこどももある程度そういう場とかを求めているという現状はあるのかなと思っています。これを引き続きどうやっていくとか、町の中でどういうふうにしていけるかということもこれからの課題でもありますし、色々な方々に参加をしていただかないといけない事業なので、これはこれ、あれはそれとか、なかなかあるかもしれないですが、皆さんにご協力いただきながら、町の居場所づくり、孤立を防ぐ、この町でこどもを育ててよかった、という方が増えるように思っているのです。そこはぜひご協力いただければなと思っています。

委員

町民課さんが補助金出したりとかされていると、バッティングもあると思いますが、個人的にも誰がやっているかすごく大きいです。どんな場に参加しようと思ったときに、自治会とずっと言っているのは、誰がやっているかわかんないからです。顔が見えないので、怖いから行かないです。委員がやっていると行きますし。委員の方々みたいに、私がやりますと言って、何かしら始める人は地域の中でも希少で、自治会があるからやるのではなく、私がやりますという人たちは財産としてすごく大きいはず。そこへの投資みたいなことは、誰がやるかは、もちろん手を挙げてくださっている方がやるとしても、場所とかお金ということの投資を町がするということは、いいと思います。

事務局

うちの事業だとほぼ公共施設でやらせてもらっていますが、私はお茶が得意だからお茶をやるとか、書道ができるとか言ってくる人がポツポツ出てきていて、そういうところで、各地域でいくつかそういう活動が少しずつ単発的に出てきてはいるので、そういったことをぜひ連携できればと思っています。

会長

よろしいでしょうか。それでは続いて、議題（４）子ども・子育て会議委員の再任に

事務局	<p>ついてです。事務局からお願いいたします。</p> <p>(4) 子ども・子育て会議委員の再任について</p>
会長	<p>ありがとうございます。ただいま事務局から説明があったとおり、私もですが、現委員の任期は9月30日までとなっています。本日まで委員の皆様に意見をいただき進めてきた経緯がございます。計画策定の審議が今年度末まで行われますので、引き続き現在の委員の皆さんに審議をいただくことが最良と考えます。人事異動等がある場合や、保護者会の委員さんなどは、所属する会の委員改選が4月にあると思いますので、計画の審議が終わるまで、年度末までお引き受けいただくことになると思いますが、その他の皆さんは引き続き委員をお願いする形でのよろしいでしょうか。ご意見ございましたらお願いいたします。継続でのよろしいでしょうか。では再任について了承いただいたということで理解させていただきます。ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。再任の手続きは、事務局でお願いしたいと思っております。では最後の議題となります。議題(5) その他ですが、事務局から連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>(5) その他</p>
会長	<p>事務局から報告ありましたが、委員の皆さんからご質問等ありましたら挙手にてお願いいたします。よろしいでしょうか。先ほどもありましたが、次回の会議は12月上旬を予定しております。次回の会議では、計画の理念や素案など、本格的な審議となりますので、よろしくお願いいたします。通知は事務局から発送しますので、お待ちください。それでは本日の議題は終了いたします。以上で議長としての説明を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。それでは事務局へお返しいたします。</p>
事務局	<p>会長ありがとうございました。以上で本日の子ども・子育て会議を終了させていただきます。貴重なご意見いただきまた長時間にわたり誠にありがとうございました。次回12月もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
一同	<p>ありがとうございました。</p>